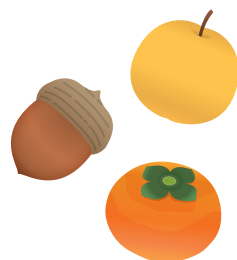


# 夢もっとひろがれ

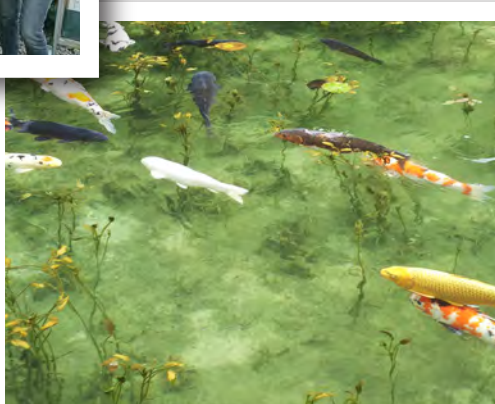
# 10

発行・編集  
いぶき福祉会後援会

〒502-0907  
岐阜市島新町5番9号  
TEL.058-233-7445  
FAX.058-232-9140  
E-mail.ibuki@alto.ocn.ne.jp  
(1部100円)



## 秋のお出かけ



暑い夏も通り過ぎ心地よい風が体を通り抜け、空を見上げると晴天に心がすつきりします。バザー等の出店も増え、店先にはこの時期ならではのいりどり豊かなお菓子や染めなど商品がならびとてもカラフルです。いぶきの日中活動では各グループで旅行に出かけ、日ごろ味わえない楽しさを味わっています。行事ごと多い楽しい季節は仲間の笑顔があふれる実りの多き秋になっています。

- もくじ
- ② 研修・来訪者の紹介
  - ③ 理事長寄稿
  - ④ いぶきの歴史
  - ⑤ 職員研修報告
  - ⑥ いぶきを支える人たち
  - ⑦ 第二いぶき夏まつり
  - ⑧ いぶき商品紹介
  - ⑨ ⑩ いぶき仲間のすがた
  - ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ 座談会・親亡き後その3
  - ⑯ 情報掲示板
  - 付録 第2回おもいもマルシエ案内



## 研修・来訪者の紹介

8月17日にいぶき福祉会にて7名の司法修習生が研修を行いました。司法修習生とは司法試験の合格者で、最高裁判所から命ぜられて裁判実務を修習中の方で、司法研修所・裁判所・検察庁・弁護士会で1年の修習後、試験に合格すると判事補・検事・弁護士になります。いぶきには毎年弁護士会の修習の一環で来ていただき、一日いぶきの仲間たちと過ごしています。以下感想を抜粋してご紹介します。

 本日は、お忙しい中、我々修習生のために、優しくご指導を頂き本当にありがとうございました。印象に残っているのは、いぶき職員、いぶき利用者

の信頼関係が形成されている点です。たった一日しかない私とは、信頼関係構築までは難しかったとは思いますが、皆さんと楽しみながら仕事をすることができたと思っています。畑仕事でへばってしまい、情けない姿を見せてしまいました。貴重な体験を経ることができました。一方でこれだけ働いても月に5000円程度にしかならないという事実には衝撃を覚えました。働いた後にいただいたお味噌汁は、味噌も野菜もすべて自分たちの手で作ったものであり、本当においしく、月に5000円程度では量れない価値があると身をもって体験しました。私は将来弁護士として働くことになり、今後どのようなことがで

きるかわかりませんが、本日の体験を少しでもより良い法律家になることにつながることを、皆様に対する恩返しになると信じておりますのでより一層の努力をしていこうと思います。本日は本当にありがとうございました。

 本日はご多忙のところ、我々司法修習生の参加をお許しいただき、誠にありがとうございました。スタッフの方々がメンバーに備わっている能力を可及的に活かして作業をすることができるよう適切なアドバイスをしてくださる姿を拝見できたことは、大変有意義な経験でした。人の能力はそれぞれであり、大切なのは各々ができることをすることである、と常々思っておりますがその考えをますます強くいたしました。

た。本日の経験を今後の仕事において生かしていきたいと思っています。人がその能力のために不当に不利益な扱いを受けることなく、その能力を活かすことができる様な社会の実現に向け、私にできることをやっていくつもりです。ありがとうございました。

 今日は茶摘みと茶の枝取り作業の体験をさせていただきました。特に枝取り作業なのですが、これほど根気のいるものとは思いませんでした。今日からはお茶を大切に飲もうと思います。又、利用者の方々とは初対面の私に対しても優しく接してくれ、作業の様々な点について教えていただきました。今まで私は障がいのある方々と接したことがなく、最初はとまどいもありました。しか

し作業が進むにつれ普通にコミュニケーションも取れるとわかり、最初感じていたとまどいも消えたと思います。今後弁護士として仕事をする上で障がいがある方とかかわることも少なからずあると思います。その際には今日の貴重な経験を活かし、少しでもその方に寄り添っていきたいと思います。最後になりましたが今日はお忙しい中ありがとうございました。

このような実習生を受け入れることで、いぶきの仲間たちも職員も毎回新たな気付きもあり、有意義な時間を過ごすことができています。今後も紙面でお伝えしていきます。

第二いぶき 森 洋三

## 相模原市障がい者 殺傷事件について

社会福祉法人いぶき福祉会  
理事長 横山文夫

### 1. 事件の発生

去る2016年7月神奈川県相模原市の知的障がい者施設津久井やまゆり園で、元施設職員が入所者19名を殺害し、26人に重軽傷を負わせる痛ましい事件が起きました。まず亡くなられた19名の方のご冥福をお祈りします。いぶきの理事長として他人事とは思えませんが、以下何点か「感想」を述べます。

### 2. 施設を守ろう

まず私が考えたのは、一人の男が強い殺意で凶器を用意して深夜に施設を

襲ったとしても、19名もの犠牲者はひどすぎることです。このような事件の再発を防止するため、いぶきでは以下の点について検討を始めたらどうでしょうか。

#### ①ハード面

昼、夜にかかわらず、不審者が侵入したら非常ベルが鳴り、警察へ通報できるシステムが導入できないでしょうか。今回のような犯人が居たら被害を完全に防止するのはできないかもしれませんが、拡大を防止することは可能と考えます。

#### ②ソフト面

職員の防犯防災意識を高め、犯罪や災害を想定した防犯防災計画を策定し、年に1回か2回職場で訓練することが必要と考えます。

### 3. 社会への窓を広げ発信を続けよう

①やまゆり園の被害者の人たちは、名前すら公表されませんでした。人間扱いされていないとまでいうと言いますでしょうか。これは家族や親せきの人たちが、自分の身内に障がいのある人がいることを隠し、障がい者と社会との接点を小さくして、障がい者がいつも施設の中で暮らす生活をしてきたからではないでしょうか。その背景に根深い障がい者とその家族に対する差別と偏見があります。家族の方らを非難することではできません。

②いぶきは障がいのある人も個性やハンディのある普通の人と考え一緒に社会の中で働き暮らせることを目指してきました。障がいのある人の顔写真も名前も出されている方が多いように感じています。今後この方向で歩いていきたいと思っています。

### 4. 差別と格差のない社会づくりを目指す

①私は今回の事件の犯人がどのような人なのか解りませんが、恐らく努力が報われて成功した人ではないようです。

②これまでの歴史の中で、差別を受けているあるいはいたげられている人や団体が、自分より弱い人あるいは「下位にある」と思い込んだ人を差別し迫害を加えた事件がしばしばあり、それが支配に利用されてきました。危険で誤った思想、行動です。又差別や攻撃は、社会的立場が最も弱い障がい者から始まりました。

③私たちはこのような点も踏まえて、道は遠いですが差別と格差のない社会づくりを一步一步目指していきましょう。





実は、私はいぶきに就職するだいいぶ前に、ボランティアとして島のいきへお邪魔したことがあるのです。それこそ20年以上前のお話なので、記憶も定かではありませんが、運動会か何かのお手伝いをしました。その後しばらくはいぶきとの関わりはなかったのですが、ふといぶきの前を通りかかったときに、新しい現在の建物に替わっていました。そのときは「福祉施設って結構お金あるのだな」と、何も深く考えず素直に思ったのですが…。



実際、いぶきに就職してみて、パストラルいぶきの募金活動や20周年記念誌作成に携わり、いぶき福祉会では、養護学校を卒業した障害のある仲間が毎日通える居場所、働く場所をつくるために、地道な運動や4度にわたる募金活動を経て、何とかここまで大きくなってきたということがわかりました。

まずは無認可共同作業所から法人化させるための募金。そして利用希望者が年々増えていったため、第二いぶき建設のための募金。デイサービスセンターコラボいぶき建設のための募金。さらに両親が亡くなった後も安心して暮らせるホーム、パストラルいぶき建設のための募金。パストラルいぶき建設の募金活動は私も一緒に参加し、何度も集まっ

募金活動の進め方について会議をしたり、仲間と共に街頭に立ちパンフレットと募金箱を持って協力を願ったり、友人知人へ手紙を書き、福祉の現状、施設の必要性を伝え協力をお願いしました。今でもいぶきの活動に賛同していただいた元職場の先輩や学生時代の友人が後援

## いぶきの歴史 その十三 募金活動について



会で継続していぶきを支えてくださっていることは本当に有難く思っています。(2016年9月末現在1365名の会員の皆様に支えていただいています。)今後もしいぶきを利用したいという希望者や、生活の場を必要とする人はますます増えてくるでしょう。そして、仲間たちの高齢化についても真剣に考えなくてはいけない時期にきています。高齢になっ

## 障害者に働く場を

親が中心に作業所つくる会

資金集めへ 力強く第一歩



「障害者に働く場を」というテーマで、親が中心に作業所をつくる会の活動について、資金集めへの第一歩を踏み出すための取り組みが紹介されている。記事は、障害者の雇用促進と、親の役割の重要性を説き、具体的な活動内容や資金集めの方法について詳しく説明している。

からといって「介護保険の使える老人施設へ」ではなく、最期を看取るまで一緒に過ごせるような環境の施設づくりが必要だと思えます。いぶきと長いお付き合いのある方は「また募金か…」と思われるかもしれませんが、今までもそうしてきたように、たくさんの人たちにいぶきを理解してもらえよう活動が続けていければと思います。

第二いぶき

宮下 和也

## 第33回 京都北部研修

先日、参加させて頂きました京都北部研修の内容を報告させて頂きます。

福知山大学で行われた研修では、6法人のスタッフの方々のレポートを基に意見交換をしたり助言者の先生方のお話を聞かせて頂きました。レポートの中では、私たちの過ごす日常に似た仲間の姿、スタッフの姿があり、同じ様に日々頑張る仲間の姿や、私たちと似た悩みや仲間への支援をするスタッフの話を聞かせて頂きました。その話

に対し、「私たちはこんな支援をしている」「もしかしたら、その方はいかに？」「スタッフ同士で意見交換をしつかりする事も大切ですね」など、それぞれの法人の方々が思いや、自身自身の悩みを語り合う場面となりました。その姿に、考え方や支援の仕方は十人十色ですが、仲間に対する思いは皆、同じ方向を向いているのだと感じました。

初日の研修を終え、夕食の交流会にも参加

させて頂きました。「研修」という緊張感のある場から少し離れ、お酒を飲みながら話をすると、法人の歴史について話をして下さる方や、「実は、私はこうなんです。そちらはどうですか?」「仲間の仕事はどんな事をしていきますか?」といった、具体的な仕事の話もあれば、「これから意見交換していきましよう!」といった、その日だけの関わりに限らず、今後にも繋がるお話までさせて頂くことができました。途中、研修の担当の方々による余興や出し物などを披露して頂きました。同じ空間で笑い合うことで、また少し距離を

縮め、楽しい時間を過ごさせて頂きました。多くの方々のお話を聞かせて頂く、非常に貴重で有意義な時間となりました。

研修二日目。前日の交流会の事もあり、顔を合わせると「おはようございます!」「昨日はありがとうございます!」と、今日もよろしくお願いします!と、自然と挨拶を交わす姿があちらこちらで見られました。もちろん私もその一人です。仲間の皆さんに対し、熱い思いを持った方々が集まっているのだと思いつながりの研修は、更に意欲的なことができました。講義の中でも多くの方が意見を

し合い、大いに盛り上がりました。

地域は違えど、それぞれのスタッフが日々、支援について悩み、意見を出し合って、少しでも良くしたい!という思いを持って支援しているという話を聞き、とても励みになりました。研修内容はもちろん、この機会に繋がる事のできた方々と共に、仲間のみなさんに向き合って行きたいと思えます。

加藤 裕一朗





## 私がいぶきを 応援する理由

今から40年ほど前(大変古い話で恐縮します。)私は、学生時代「障害者問題研究会」通称「障研」というマンモスサークルに所属していました。「大地をけつて」というサークル歌もあり、手話を交えて総会やコンパで歌うのが習わしでした。部員が多く、それぞれ「教育」「労働」「医療」「生活」の4パートに分かれて活動していました。私は、教育パートに所属し、「障がい児の学習権と養護学校の義務制」といったテーマから「アヴェロンの野生児」や糸賀一雄・田中昌

人等の著書をかじったり、先輩の勧めで昭和日曜学校やゆたか共同作業所等の保育やボランティアに参加したりしていました。決して熱心なサークル部員ではなかったのですが、いぶきも参加している「きょうされん」との関係では、愛知で共同作業所連絡会の全国大会(きょうされん大会)を開催するということで先輩(後の大阪府きょうされん代表理事の故高井博之氏)や労働パート(現きょうされん理事の後藤 強さん、塩田千恵さんら)を中心とするサークル員と

共に大会を手伝った覚えがあります。鈴木清寛氏(初代共作連委員長)らの生き生きとした陣頭指揮ぶりを身近で観てあげたを感じた学生時代の微かな記憶です。そんな学生時代を経て教職に就きました。最初に赴任した東濃養護学校では、3年目から進路を担当することとなり、地元の「やまびこ共同作業所」「こだま共同作業所」等小規模作業所との関わりを職務上もつようになりました。以来、教え子や卒業生の実習先・進路先とどう付き合っていくか?向き合っていくか?協力できることはないのか?が自分の学生時代の中途半端な活動に対する反省と償いの気持ちも相

まって何かせねばと思うようになりました。また、進路指導主事として「主任手当」なるものをいただくことになったことを契機に、いぶきだけではなく、可能な限り生徒たちの進路先の後援会員等となって財政的に厳しい運営状況の足しになればと手当をカンパやバザー協力に充てるようになりました。以来、居住地が土岐市/可児市から岐阜市に移り、その時々々の特別支援学校の卒業生の応援団の端くれとして、実働での協力はほとんどしてないのですが、島いぶきや居住地に近い第二いぶき・パストラルいぶきを陰ながら応援してきました。きょうされんの大切な理

念でもあり、いぶきの運営方針の柱である「どんなに障がいの重い人をも受け入れる」という姿勢や一人一人のQOL向上と人権を大切にしたり取り組みについては当初より感心し、賛同しています。近年では、春のいぶきまつりや夏祭りには、必ず顔を出し、自主製品やバザー用品を購入して見て回り、生き生きとした楽しい雰囲気味わっています。今後もしいぶき福祉会が地域に根差し、みんなのねがいやニーズに寄り添いながら発展されることを切に願っています。

岐阜盲学校  
林 亨





会場内では保護者の皆様やボランティアさんの



## 第二いぶき夏まつりを開催しました。



7月16日(土)に第二いぶきにて、『第17回なつまつり燃えろいぶき!』みんなでつな



協力の下、焼きそば、カレー、フランクフルト、からあげなどの模擬店が出店し、とても美味しそうな匂いで会場を包みこんでくれました。その匂いに誘われて続々と売り切れになるなど、大変活気のあるものとなりました。模擬店に負けじと仲間の店のミルクプリンでも過去最高の売り上げを記録し、「おいし



かったよ」の声をかけてもらい嬉しそうに答える仲間の姿がありました。また、小さな子どもさんにも楽しんでもらえる、祭の定番、水風船釣りや、おかしくじも好評で、会場では水風船で嬉しそうに遊ぶお子さんの姿が微笑ましく見られました。

いぶきの仲間も地域の方との交流をより深める企画としてシールラリーを行いました。各場所のスタンプ(仲間)に声をかけ、ミッション(ドキドキワクワクポーズをとる等)に成功するとシールをもらえるシステムになっていた



ます。ミッションに成功しシールをもらい喜び跳ねるお子さんの姿がとても印象的でした。

ステージでは勇爽太鼓さんや風華蓮さんの、迫力ある踊りや演奏でまつりを盛り上げていただきました。続く仲間ステージも、おどるポンポコリン、

恋するフォーチュンクッキーを会場の皆様の手拍子に乗せて会場一体で盛り上がりました。また今年の司会はすべて仲間が担当し、力を合わせて最初から最後までスムーズな進行を行ってくれたのも祭の成功の一つでした。



昨年は開催できなかったなつまつりですが、地域や各団体さんから「今年は開催してほしい」との連絡が多々ありました。それだけ、多くの方々が必要な祭として考えていることを大変嬉しく思います。けっしていぶきだけの祭でなく、「みんなでつながる」そんななつまつりを今後も開催し、たくさんの方の思い出をこの出屋敷地域で積み重ねて行きたいです。

第二いぶき  
澤井 大輔



## りすのほっぺって？



第二いぶきのアトリエほっぺの仲間たちが丁寧に手作りするジャム。そのときにしか手に入らない果物や野菜をここと煮つめて、かわいい小瓶に詰めています。果物や野菜をそのまま味わっているような素材感とゴロツト楽しい食感、みずみずしい香りと優しい甘さが特徴です。001の「うめじゃむ」に始まり、9月末現在371の「ベリーベリー」まで371のレシピ。その時にしか出会えない味ばかりの、一期一会のジャムです。

## つくりてのおはなし

### 生産者さんが大切に作った 果物や野菜を使っています。

「りすのほっぺ」の原材料は、生産者さんから直接仕入れることもあります。ご縁から果物を提供していただく場合があります。実際に



仲間たちが生産者さんの元へ出向いて、その手から直接食材を預かる場合も。また「加工品開発がしたい！」という生産者さんとタッグを組んで商品開発をすることもあります。

### ひとつひとつ、丁寧に。 手作業から生まれる味わい

素材の味を活かす方法で野菜や果物を刻んだら、それをじっくりと煮込みます。丁寧にアクを取ったり、適温まで冷まして糖度を測ったり…。すべては仲間たちの

丁寧な手作業で行われています。添加物や保存料は極力使用せず、素材の甘さ



を引き立てることを最優先につくるジャムは、大量生産にはできない贅沢な味わいです。

### ある分だけで、おしまい。 一期一会の幻のジャムも!?

旬のおいしさをぎゅっと小瓶に詰め込む「りすのほっぺ」は生産数や販売時期が決まっています。素材がある分だけ。その野菜がとれる時期だけ。その果物が多い期間だけ。例えば、「たくさんとれたからどうぞ」と譲ってもらった果実で作るジャムは、数十本分だけしか作れないこともよくあります。「今だけ」の味だから、その愛しさもひとしおです。

「りすのほっぺ」はこんなところで売っています

ねこの約束 JR 岐阜駅店 岐阜市橋本町 1-10-1 058-265-8909

第二いぶき 岐阜市出屋敷 493 058-229-6464

ふれあい福祉マーケット (月2回開催) アクティブG2F ふれあい広場 第二第四金曜日

ネットショップ「いぶきスタイル」 [www.ibukistyle.com](http://www.ibukistyle.com)

りすのほっぺジャム 全種 1個 350円～



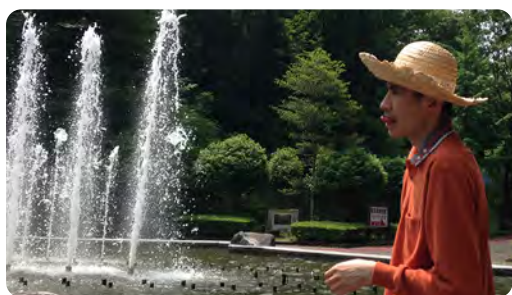


## 第二いぶき 仲間のすがた

### 松田佳士さん

#### 暮らしの支援の なかで大切に したいこと

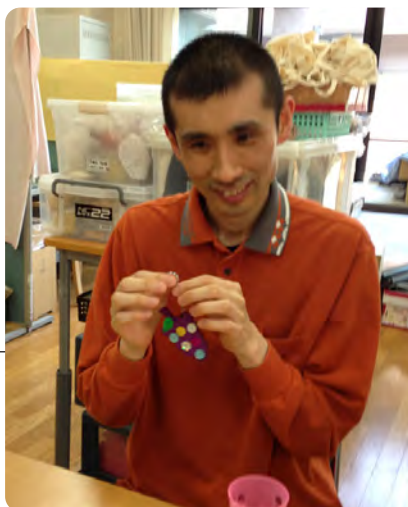
松田さんは普段は物静かで一人の時間が好きで、大きな声や賑やかな場所や環境の変化が苦手な仲間です。パストラルでの生活も6年目になり、松田さんもホームで落ち着いて生活できるようになってきました。時には不安な気持ちから、職員や仲間の名前を呼ぶことがあったり、独り言を話す姿が見られます。しかし、松田さんの気持ちに寄り添う支援をすることで、穏やかに生活することができていま



す。パストラルでの生活が始まり、ホームからみんなと同じ時間に第二いぶきに出勤することもできています。生活のリズムができたことで、環境の変化にも適応できるようになってきました。それは、松田さんがパスト

ラルでつけた力と考えています。松田さんは手かざしなどのいろいろな常動行動が見られますが、その常動行動は松田さんが自分らしさを取り戻す大切な時間だと考えています。共同生活で周囲の気配を感じながらも一人の時間を大切にしてもらうことによって、穏やかに生活できるのではないかと思います。けれども、パストラルでの生活に慣れてきて、入所当初は出来ていたことでも常動行動が増えてしまったり、動くことができなかったり、どうしても時間がかかってしまう姿が見られるようにもなりました。食前の喘息の薬の吸入、吸入後のうがい、食事、トイレ、朝の着替えなど生活の場面でのこだわりが多く見られるよ

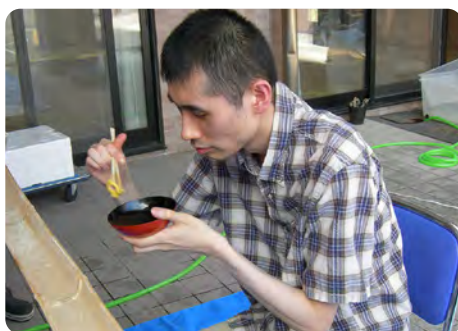
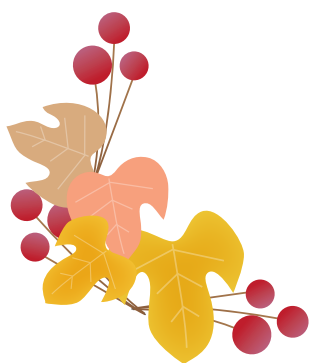
うになり、生活のしづらさが見えてきもしました。それは30年間生活していた自宅での生活に近づいたことでこだわりが増え、そのこ



だわりから抜け出せず困っている姿でした。松田さんの思いを尊重する中でこだわりから抜け出せない場面では、「そろそろ吸入の薬を終わろうか」「松田さんご飯を食べようか」などの声かけをしています。一度こだわりを切つてあげることが松田さ

んの生活のしやすさに繋がると考えて声かけをしています。時間に追われ、せかされてしまう生活というものは、窮屈に感じると思いま

す。しかし、こだわりから抜け出せなくなり、本当にやりたいことができなくなっても、生活をせばめてしまうのではないかと考えます。松田さんがホームで生活するなかで、ゆつくりできる時間と美味しくご飯を食べる時間を大切にして過ごしています。今後もホームで生活する中でいろいろなこだわりや常動行動が増え、そのため更に生活



のしづらさが見えてくる  
と思います。その中で松  
田さんの思い、願いを大  
切にしていきたいと思っ  
ます。

パストラルいぶき  
(グループホーム)  
大野 晃一郎

## 仲間のすがた を読んで

松田さんが、環境の変化を苦  
手にしているのは、日中の様  
子を見てもよくわかり  
ます。そんな彼が、ホームと  
いう共同生活の中に馴染ん  
でいくまでには、きつという  
んな過程があったことと思  
います。困っているとき、不  
安なときにはパストラル職  
員の名前を呼ぶことがあり、  
パストラルが彼にとつて安  
心できる場所になっている



のだと感じています。安心、  
安定した生活の中から再び  
新たにこだわりや情動行動  
が増えてしまうこと、それ  
によって生活をせばめてしま  
うことは、私たちも松田さん  
のことをよく理解し、どこま  
でを見守り、どこから支援を  
するべきかを見誤らないよ  
うにしなければならな  
いと思います。

パストラルでは、自分の時  
間を大切に支援しています  
が、一人だけの静かな時間  
ではなく周囲の気配を感じる  
中ということのポイント  
なのだと思います。みんな  
のことを意識して、実習生さ  
んなど新しい人とも嬉しそ  
うに関わる姿を見ていると、  
決して一人でいることがよい  
わけではないのだらうと思  
いました。

パストラルという安心で  
きる場所があるからこそ、日  
中では少し刺激のある体験  
をすることも可能なのでは



ないかと考え、彼の気持ち  
や思いを引き出す支援をし  
ています。パストラルと日  
中では、ノートを利用して  
日々の様子を伝えあってい  
ます。日常の何気ない出来  
事から、ちょっとした気づ  
き、疑問、そんなやり取り  
を大切にして、今後もパス  
トラル、日中ともに連携し  
て、彼の生活を支えること  
のできる一員を増やしてい  
きたいと思っています。

第二いぶき(生活介護)

藤井美和





## 座談会

※今回は4回シリーズの3回目です。

## 親亡き後について③



出席者

林…法人副理事長(進行)

前川…父親の会世話人

大野…いぶき保護者会会長

土田…第二いぶき保護者会会長

池田…西部事業部長

**前川**…ちよつと話変わるのだけど、ショートステイで子どもを1週間ほど入れたとかいうようなときに、いぶきは全部できないでしょう。

**林**…難しいですね。

**前川**…他の施設と連携しながら相談にのっているという仕組みは出来ているのですか？

**林**…それが無いのです。前は市役所が調整してくれていた。今は相談支援の民間に委託だから、市役所はしない。リストを渡して「ここに相談支援の事業所リストありますから、電話をかけてください」というだ

けなのです。

**前川**…そうすると、いぶきと話ができるような事業所はないですか？

**池田**…僕が今相談支援事業所のところを担当しているのですが、実際岐阜市の近隣のショートステイをやっている事業所が少なく、ショートステイをまとめて利用したいという場合、僕の所で相談を全部受けて、僕が各事業所に空きを聞く状態です。ただやっぱり、ほとんどの所がその事業所の利用で埋まっています、なかなか長期間利用できないというのが現状です。実際いぶきもそうで

す。他の所から、いぶきを利用していない方で「いぶきのショートを利用したいのだけど」と言ってきたら「も正直いっぱいになつているので「ごめんなさい」と断っている状態があり、他の事業所でも同じような状態です。土田さんのところも、色々あって他のショートを使つて頂いているんですけど、あれもなかなか最初は「この日はいっぱいだから」と断られて、というのがあって。日にちを決めながら、早めに手をうつて開けてもらったりとかしていただきました。

**土田**…それもまた、計画相談がものすごく忙しいです。すよね？今では私個人が「調整してください」と直接やつている。

**池田**…きつかけさえつくつてしまえば。後は利用される方が直接やり取りしていただいた方が間違いないです。日にちもピンポイントで急に使いたいと言うの

も、ある程度利用実績を積むと、少し融通をきかせてくれる部分もあるので、それは大きいと思います。**土田**…慣れてくると、向かうもね。

**林**…本当は市役所がやらなければいけないことなんです。公費でやっている事業所だから。

**土田**…でも、私は池田さんの仕事って点数があつて、それでいぶきが儲かるなラと思つて池田さんをお願いすべきかなと思つたけど、実際違つたのでしょうか？

**池田**…相談支援は、あれはどれだけ手間をかけても多くの収益が上がるというものではないのです。

**林**…計画はどれだけ苦労してたてても、同じ単価なのですよ。だからおかしいと言っているんです。行政がそこまで責任を全部民間に投げると言うのは、少し前では考えられないことでした。

**土田**…どこも断ると言う状況になるよね。今いる利用者で手いっぱいだもんね。**林**…ショートも今入所待ちの、どうしても家に帰れない利用者のために使っているというのもある。ロングショートという変な言い方をして2年3年住んでいる方がいる。結局身よりもなくて、どこもかえるところが無い。

**土田**…入所ではなくて？ロングショート？

**前川**…365日か。

**林**…そういつたように使われているケースもある。そこはずっと埋まっている。

**池田**…うちでも、グループホームが整備できるまでの間、どうしても家では難しいということで、緊急避難的にショートステイを第二恵光学園にお願いした。そのときも、1カ月ちよつとはそこで利用していただきました。**林**…お母さんとお子さんだけの家庭で、朝「いつて

きます」と言っていぶきに  
来たけど、お母さんが緊急入院してしまつた。そうすると、もう帰るところが無い。僕らも電話をかけて、日野恵光ですとお世話になつて、毎日送迎していた。昼間はいぶきで受けるということ。たまたま所長さんが懇意だつたから。つながりがあれば何とかするみたい。世界なのですよ。  
**土田**：私も第三美谷の先生と知り合ひで。困っているということを知つて、僕が夜勤やるからいいよって言つてくださった。他の人では多分迷惑かかるし、夜中起きてもらわないといけないような事もあるかもしれない。人間関係で預かつてもらつたというのもあった。それで、「宿直室の隣にここに部屋があるから使つていいよ」と。安心しました。他の施設だと不安だつた。その先生がその時は

夜勤をやるといつてくださつて、それでものすごく安心した。2〜3時間ずつ練習したらいいと言つてくださった。いぶきが終わつてから3時半に美谷に連れていって、6時か7時に迎えに行くという事を10年間つづけた。  
**大野**：それはいいね。  
**土田**：そうやって実績を積んでやつとなの。  
**大野**：そうなの、この子達ね。バツと行つてすぐできるわけない。土田さんとの関係があつたから。  
**大野**：そうね、慣れたいぶきで全部やつていただきたいと思ふ。  
**林**：しかし障害をもつお母さん大変だね、お父さんもそうだけ。なんか楽しむと言うか、親の方の介護しながら、子ども一日長く生きたいみたいな。そんなことでは・・・

**土田**：そうだったのですよ、本当に。だけど、みんなホームができたおかげで、「この子の人生があるから、もう私は安心して死ねるわ」と。  
**林**：僕も今前川さんがおつしやつた1週間くらいのシヨートが好き。な時に使え、リフレッシュ出来ると思う。例えば海外旅行へ行つたり。  
**土田**：本当に林さん！1日のシヨートでやつと京都へ行つたり東京へ行つたりが1泊で最近楽しめるようになった。シヨートができたおかげなのです。  
**林**：親にも人生を楽しむ権利はある。  
**土田**：息子や娘が結婚した時に、九州の人だったものでその時に飛行機で行つたりするから1泊というわけにはいかないけど、でも美谷にシヨートをお願いして、1泊で飛行機で鹿児島まで行つた。いぶきではまだ土田がお願いできない。

**大野**：土日こそ使いたい。  
**土田**：でも使えない。そういつた点で1泊はできたけど、今後は体験型があると聞いて、連泊ができるならと思つてすごく喜んだのだけど、それにも限度がある。  
**大野**：意味が分からなかったけど、同じ仲間が長い間泊まれる方法になつてのですね？  
**林**：市が、難色を示して、体験型に入ると言う事は入所を前提とした方しか駄目だと言いだした。  
**大野**：そういうこと？  
**池田**：あくまで入所を前提とした「体験」だという考え方。  
**林**：お遊びじゃないのだよ、と言うこと。  
**前川**：あくまでも「入るつもりだ」と言えればいいのではないか？  
**大野**：みんなで分け合えばいい。  
**土田**：入るつもりだと言つただけだ。

**池田**：市がなぜ難色を示したかという、体験型の支給決定を出す対象者にひとつの部屋なのに何人も体験するなんておかしくないかと言われたんです。  
**前川**：障害者に対する認識が違いますね。それは市の制度ですか？  
**池田**：国の制度です。  
**林**：でも支給決定の裁量は市にある。  
**池田**：運用と言うか考え方は市の裁量。岐阜市は意外とそういう所が・・・  
**前川**：交渉力を高めてもらつて。  
**林**：お母さん方にアンケートをとると、ホームよりもシヨートを使いたいと言われる。好きな時に好きなシヨートを使えると。  
**前川**：今の段階で、何を一番選択するかというシヨートだ。  
**大野**：そうね、誰に聞いても。  
**林**：その資源がない。ホームを認めたからうちはず



くつたけど、入所施設は無理だった。入所施設にショートステイ。通所は認めなかったけど、あれも運動で長良ひまわりさんが単独型ショートステイができたでしょ。あれは、施設長の家が隣にあるということと認めた。うちもグループホーム、施設が横にあるでしょ。あれが遠かったら認めなかった。管理部門が近くにあるということと特別に認められた。普通、ショートステイは入所施設でしか無理なんです。24時間管理できるというのが条件だから。ショートステイの事業所をつくるわけにはいかない。非常に厳しいのです。非常勤職員が一人くらいしか泊まっていないでしょ？管理者がいないと駄目だと。そうすると所長が自宅で預かるしかない。

**土田**：本当に個人の負担が大きくなっているね。

ボランティアに頼ったり、個人の善意に頼ると言うか、本当にそういう状況になってきたね。

**林**：岐阜市も毎年あれだけ要望を出して、ずっと20年やっているのに、本当に認めてくれないよね。昔は一緒に協議書をつくったり、夜中にいっしょにやってくれたのだけど。今は岐阜市自体がやろうという気が無い。分からないことがあると、すぐ厚労省に聞くと、自分たちで考えて自力でやってほしい。

**土田**：でも、ケアホームがあと2棟が本当につくれそうですか？

**林**：それはつくりまします。

**大野**：つくるよ、つくるよ。

**林**：これは事業計画で、今理事会でもそれを議論していて、土地の用途がつき次第、建築する予定です。

**土田**：土地も探してくださっているの？

**林**：今、交渉している段階なので。

**林**：通常の法人で、これだけホームを持っているところは無いですよ。とりあえず、それでいいのにおいて、冒頭に言った様に新しい制度をつくっていかないと。この制度は矛盾だらけなんです。

**前川**：そうだね。

**林**：無理がある。それで、10人とか20人は駄目だと言うでしょう。だからあのホームも3棟つくったのだから。浄化槽から引き込みも全部別だよ。ものすごいお金がかかる。大きいお風呂があつて、みんな入りに来ればいいけど駄目。1棟1棟で生活が完結するというルールがある。

**土田**：もっと出来るのにね。でも今度は2つしか無理でしょ。

**林**：2つです。

**土田**：2つ以上は無理ですか？

**林**：うーん、分からないけど、一応後2棟はつくらないければ。

**土田**：それこそ手を挙げている人がどのくらい居るか知らないけど。

**林**：今回2棟建てて募集したら、希望者がすぐく来ると思う。

**土田**：来ると思う、そういう意味では。

**林**：さっき言ったみたいに、親さんも学習して「あの子も出来るなら、うちの子も出来る」となってきた。

**土田**：そうそう。それと後いくつくってもらえるか、正直見通しがつかないものね。

**林**：入所者を選ぶのがしんどい作業で、困難な方が優先になるとは思うのですけど。

**土田**：結局また私のように親が元氣してると。『今は元氣だけど明日のことは分からないので』と言っているんだけど、まわりの親もこの前、手術したし。

**林**：みんな弱っている。

**土田**：弱っています。体力

無くなった。

**林**：いつかガクツときたときに「林さん何とかして」と、「どうするのだ、林さん辞めて居ない」とか言つて。そこら辺を今職員で将来のビジョンというのをやつて、みんなで共有して将来こういことをやっていくのだ、というのをくっている。職員集団もここまで大きくなると、理念的なものをピシッとやっていると、非常に難しいです。ね。小手先のことになるかと、手練手管になつてしまふと迫力がないから、応用がきかないし。

**前川**：それは協力してくれた市民の方たちが納得できるような、そういったビジョンをきちんと示さないと、まずいとおもいますよ。

**林**：法人設立後の職員に、そこら辺の継承が難しい。日常業務はきちんとできるのだけど、じゃあ何を目指して何を大切にしてい

くのかということをし、きちんと共通理解にしないと、これから出来ないです。

**前川**：国の方は法律をどんどん変えていくしね、余計に難しいよね。

**林**：今度の選挙あたりが、節目かもしれない。本当に戦争ができる国になったらこんな議論やつていけない。住むところがなくなるとか、親亡き後どうするかなんてどうでもいい議論になってしまつて、きちつとそこら辺をおさえて運動もしていかないと、いぶきらしさがなくなつてしまう。

**前川**：そうだね。

**林**：永遠のテーマだね。

**土田**：うん、そうそう。みんなが入れるということなんて…。次から次だものね。

**林**：要するに、津波のようにドゥワーと「入れて、入れて、入れて」と。

**土田**：本当だね。でも今年第二は入られない

ですよ？

**林**：第二は定員いっぱいだから、入れられない。

**土田**：西部は何人入るの？

**池田**：5人です。

**大野**：5人だよ、毎年5人。

**土田**：へーびっくり！

**林**：周りから見ると、いぶきは貪欲に拡大しているみたいに思われるけど、そうではないのです。もう何とかしてやつていのが現状です。

**大野**：もう覚えられないくらい入っている。

**林**：というのは、児童デイがいつぱいできたでしょ。それが株式会社とか、鍼灸マッサージから英会話教室までやつてい。そういう所が、重度の子の利用を断るといぶきに来るわけですよ。児童デイ受けていると、実習をうちでして、そうなる親さんも学校もいぶきお願いしますと

なる。

**土田**：児童デイなんか、私は全然情報は知らなかったけど、聞いたたら、デイサービスの人達は学校まで迎えにいつて帰りは自宅まで送ってくれる。私なんて、いまだに送迎もやつてもらつていない状態。

**林**：昔のそういうことを思えば、今は天国だと思う。運動の成果ですね。

**大野**：初めは親に迎えに来てもらつて言つていたじゃない？ そういうわけにいかなくなつた？

**林**：すべての事業所が今まで送迎しているのです。

**土田**：社会貢献としていぶきはやつてくれているのだからと信じているけど、結局お金ですかね。

**林**：放課後デイは報酬が非常にいい。正直つてこの昼の就労よりも3時間くらいの日の方が高い。

**土田**：だから今の親さんの意識がね。

**土田**：親さんの意識が全

く違う。何もかも手とり足とりやつてもらつた人達は、先ほどの話のように施設づくりを苦勞した世代が、未だにショートでも、送迎でも苦勞している人がたくさんいることを知らない。

**土田**：結局はここに入れば、送迎も全部、朝送りだしたら帰りも遅くまでよいわけじゃないですか。うちなんか病弱だったから養護学校へ行つても1時半には迎えに行つて、昼まででした。

**大野**：2時、3時になると迎えに行かなきゃいけない。

**土田**：通院も病院に行くにも、本当に苦勞して。今だと孫が病氣とかになると「いぶきに30分1時間延長おねがいします」という日もあるけど、本当に私達はそういう状況の中でずっときているけど、今の人達はそういう職員の苦勞とか分

かつてくれるんだろうか。  
**大野**：当たり前になつてい

るから。  
**土田**：そういうことが、私はちよつと…

**林**：時代の流れだね、それは。

**大野**：でもこの前、ショートステイの説明の際に、「パストラル入れますか？」と一年目の利用者の親が質問した。入る気だね。「まだまだだ」と言つたけど。

**林**：親さんの負担が減つていると言う事は良いことでは。

**土田**：それは良いのだけど、本当に送り出したらあつて、第二の方も仕事をもちている方もいるから、それはそれで仕事と障害を抱えた子どもの両立は大変だろうなと思つて役員を引き受けているのです。そういう人達をもう少し考慮して欲しいです。



---

---

---

---

後援会員への新規加入・更新をよろしくお願い致します

[振込先] 郵便振替 00840-3-91146

加入者名 いぶき福祉会後援会

[年会費] 一般会員 一口 2,000円

団体会員 一口 10,000円

[お問い合わせ] いぶき福祉会後援会事務局

TEL 058-233-7445

FAX 058-232-9140

E-Mail [ibuki@alto.ocn.ne.jp](mailto:ibuki@alto.ocn.ne.jp)

(タイトルに後援会員と入れて下さい)



● オンラインでの入金もできるようになりました。

下記のアドレスからご利用いただけます。

いぶき福祉会canpan決済

<http://kessai.canpan.info/org/ibuki/>

後援会への入会はJR岐阜駅の

「ねこの約束」でも手続きしていただけます



第12回

衣料品バザー

毎年恒例の衣料品バザーを開催します。  
有名メーカー新品の衣料品、いぶきのこだわり  
のお菓子をご用意しております。  
売り上げは、障がいのある仲間の活動の援助  
に使わせていただきます。

日時:11月12日(土)・13日(日)  
10時～13時

会場:生協「虹の家」岐阜市芥見南山3-1-1



お問合せ:第二いぶき ☎ 058-229-6464

編集後記

いぶきができて21年が経過した。発足当時はワープロからパソコンへの移行期で、当時は現在のネット環境を想像することもできなかった。「不承認社会」という言葉がある。ネットでの炎上や、モンスターペアレント、子供の不祥事に親が陳謝など枚挙にいとまがない。いぶきも21年間大義なく運営を行ってきたが、「不承認社会」の中では、些細なことが「社会福祉法人」という事業体ゆえに、社会的な強烈な制裁をこうむる蓋然性が高い。しかし私たちの通信では、それを恐れずこれからも、愚直に飾らず様々な事を発信していきたい。

編集委員長 林守男